

## 【島根県】 校務DX計画

### 1 校務DXを推進する上での現状と課題

島根県は、県立学校の教職員の校務における業務負担を軽減し、情報の一元管理・共有化を図るため、校務支援システムを平成26年度から運用を開始している。その後、自動採点システムを導入する等、教職員の働き方改革を推進してきた。

しかし、GIGAスクール構想の下での校務DXチェックリストを用いた自己評価の結果、授業研究会や校内研修のオンライン化や生成型AIの活用は進んでいるものの、島根県の達成状況は全国平均を下回っている。

特に、教職員と保護者、児童生徒間の連絡へのクラウドサービス活用や、名簿情報の校務支援システムへの手入力作業に課題がある。

### 2 校務の課題を解消するための方策

こうした課題は、閉域ネットワーク上で稼働する校務支援システムがクラウドサービスと連携できないことに起因する。

次期校務支援システム更新時に、必要な情報セキュリティ対策を確保した上で、クラウド化を図り、課題を解消する。

クラウド化した校務支援システムを起点として、保護者や児童生徒とのコミュニケーションのデジタル化を推進するとともに、他のクラウドサービスとのシステム連携を強化し、不要な手入力の削減を図る。